

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		障害児通所支援なんてん(児童発達支援)				公表日	
						2025年 2月 28日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		一日の定員を決めて多くなりすぎることがないようにしている。	平日は十分なスペースだが、土日祝日などの休校日は手狭になってしまう。（放デイの児童と提供時間が被るため）	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用希望に基づいて、スタッフの出勤状況を調整している。	人員は十分ではあるが、専門職が配置できると更に良いと思う	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		バギーで動き回れるような構造になっている。	一人一人の特性に合った環境を考えていきたい	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		定期的に整理整頓を行い、使ったものを元に戻す行動がスタッフにも子どもにも身につけている。	体を動かして遊べるものが少ない。幼児であることから環境面・安全性にはもっと配慮を行っていきたい	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	ワンフロアの為、パーテーションやカーテンで間仕切りをしている。	個別部屋やそのような空間がなかなか作れない	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員会議にて繰り返し行っている	職員会議への参加人数を増やし、認知度をたかめていく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年実施	保護者の方々ともっとたくさん相談する機会を増やしたい	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		今年度は全員面談を行い、話ができて良かった。	今後も風通しの良い環境を整えたい	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		必要性があり、今後も外部の意見等を取り入れていきたいと思う	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		身近で行われる研修会の案内があり、積極的に参加する人が多い。	社内や外部研修をもっと活用していきたい	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域に基づいた計画を作成	公表して参ります	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的に行っている	話し合いの場を増やし、計画・支援に生かしていく	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的にケア会議を行い、支援者それぞれの視点からの話し合いを行っている。	少ない時間の中で有効な話し合いを行えるようにしたい	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		半年以内に見直しを行っている	支援内容を考慮していく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		個別に具体性を持ったアセスメントするためのシートを作成	フォーマルを実施できるスタッフがいなか、実施できる時間がないか。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援内容が適切なものか、定期的に見直す会議を行い支援者全員の意見を反映しております	具体的に分かり易い内容で作成していくよう心掛ける	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月ごとの活動予定を話し合って決めている	スタッフ全てで関わるができるよう努めたい	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		週ごとに内容を変えている。外出の活動も増やしている。季節の行事に合わせて利用者が無理なく楽しめる内容を考えている。	一人一人に合った支援内容を模索していきたい	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個人に沿った計画を立てている	今後も意識して取り組んでいく	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		可能な限り朝礼を行っている。難しいときはグループlineを代用している。	職員間での会議を増やしていけたらと思います
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼を行い共有、また経過記録を日々記録している	各々就業時間が異なるため困難ではあるが、日々経過記録の記載に努め、今後の取り組み方法も考えていきたい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の活動記録を書いたり写真を共有、グループlineを活用することで休みのスタッフとも情報共有できる様になっている。	検証や改善点にも着目していきたい
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングは行っている	モニタリングを踏まえ利用者保護者と相談を重ねていけるよう取り組んでいきたい
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		利用の相談、利用開始時には必ず参画してもらっている	今後も定期的に相談員にも参加して頂き、多角的な視点で検討していけたらと思います
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療的ケア児については医師より指示書をお願い看護計画を立て、他児童は園へ見学に行ったりまた来てもらっている。	注意すべき点が発生した場合、情報交換をしていただけている。我々も連携を意識して支援に当たりたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要時には連絡を取り合っている	今後も混合に利用している方の利用も踏まえて、情報共有していきたい
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	相談支援員に伝えたり保護者にパイプ役になってもらったり、必要な場合は保護者を通して、学校からの問い合わせに答えている	今のところ必要性はなかったが、今後卒園を迎える幼児について情報共有していきたい
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			助言などを頂き、スキルアップにつなげたい
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	外出やボランティアの子ども達と活動する機会を楽しみにしています	利用人数が少ないので難しいが、検討課題である
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳やSNSを使用し、保護者とのコミュニケーションに努めている。送迎時に様子を伝えている。	時間を掛けながら理解の幅をもっと丁寧に深めていきたい
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	お困りごとなどには誠実に応えます	家庭や両親にも助言や相談などができるように検討課題とする
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に分かりやすく説明する様に心掛けています。	今後も変更などがある場合や質問がある場合にはきちんと丁寧に説明をしていきたいと思えます
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		作成の際は意見等を伺っております	今後も保護者さんに分かりやすい説明や支援方法をお伝えできたらと思います
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		作成・見直しの際は確認しております	今後も保護者さんに分かりやすい説明や支援方法をお伝えできたらと思います
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		常に保護者の意見に耳を傾けている。送迎時に保護者と話をしたり、ノートに書かれてきたことに文章やlineで返信して対応。	保護者さんにもっと寄り添いサポートができたらと思えます
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	遠足など、保護者参加の活動を実施、兄弟についても参加を促している。	今年度は初めて親子遠足を実施し、保護者同士の顔合わせの機会を設けた。今後も定期的に実施したい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		lineを活用。保護者とは事業所のスマホで、必要な内容はスタッフlineで周知している。	人員確保などいより良い体制作りをします

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		月ごとの活動内容をプリントで配布。インスタグラム開設。	もっと早めに計画・予定をお知らせし、利用を楽しみにしていただけたらと思います
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付き書庫に保管し大切に管理している	振り返りや注意喚起を行います
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		送迎がスムーズに行えるように、自宅や事業所や送迎車の写真を共有している。	もっと配慮やスキルをあげていきたい
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域ボランティアの方々との交流があり、また近所をよく散歩しています	地域の方々にも知っていただけるような工夫をしていきたい
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	マニュアル等は策定、避難訓練を行い意識を高めている	そのような研修会があれば積極的に参加し内容を共有する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月25日に避難訓練	必要な訓練を行えたらと思います
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時の面談で聞き取りをしている。変わったことがあればその都度連絡をもらっている。	対応ができるように取り組みます
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用前に保護者に聞き取りを行い、避けるよう共有している。	食事等の配慮や対応に努めます
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	送迎車に安全ブザー設置。	安全計画を作成し安全管理に取り組みます
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	○	医療的ケア児は酸素や非常食の預かり、オムツ使用児はオムツをバックで預かり備えるようにした。	安全計画を作成、周知していきます
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々ヒヤリハット報告書に記入し共有	ヒヤリハットやアクシデントを解析し次に繋がるような取り組みの改善をおこなっていききたいと思います
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		市などで行われた研修を社内で開催し、職員に周知している。	虐待防止委員会を活用し定期的な研修を開催していく
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時や都度、必要性に応じて相談をしている	行えていない児童もいる。（バギー乗車について等）法人体位で認識などを検討し誠実に取り組んでいきます